


再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名：一般国道50号 前橋笠懸道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 延長：関東地方整備局 12.5 km
起終点：自：群馬県前橋市今井町 至：群馬県笠懸町鹿		
事業概要 一般国道50号は、群馬県前橋市から茨城県水戸市に至る延長約150kmの主要幹線道路であるとともに、通過市町村における日常生活や経済活動を支える重要な路線である。前橋笠懸道路は、群馬県内で唯一の2車線区間である前橋市今井町～笠懸町鹿間における慢性的な交通渋滞を解消し、地域住民の生活環境における安全性向上を目的とした延長約12.5kmのバイパス及び拡幅事業である。		
H13年度新規着工準備	H - 年度都市計画決定 (H - 年度変更)	H - 年度用地着手 H - 年度工事着手
全体事業費：約427億円	事業進捗率：2%	供用済延長：0 km
計画交通量：31,000～39,000台/日		
費用対効果分析結果	B / C (事業全体) 3.2 (残事業) 3.3 総費用 (残事業)/(事業全体) 296/305億円 (事業費：262/271億円) (維持管理費：34/34億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 972/972億円 (走行時間短縮便益：870/870億円) (走行費用減少便益：93/93億円) (交通事故減少便益：9/9億円)
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（旅行速度の改善、バス路線の利便性向上が見込まれる） ・国土・地域ネットワークの構築（桐生市など日常活動圏中心都市へのアクセス向上が期待される） 他12項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 前橋笠懸道路は、地域活性化の促進、ゆとりある生活の実現等に重要な役割を果たすことが期待されており、桐生市をはじめとする関係7市4町の首長で構成される国道50号バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望（平成17年11月10日）を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 環境影響評価に関わる現地調査の結果、稀少猛禽類（オオタカ）が確認されたため、「猛禽類の保護の進め方」（環境庁自然保護局）に基づく調査に約2年間の期間を要した。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成17年9月に環境影響評価の準備書の公示（縦覧は10月まで）を行うとともに、引き続き評価書の手続きとあわせて都市計画決定に向けた手続きを進めている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 環境影響評価書の内容について専門家の意見、国土交通大臣及び環境大臣の意見の反映など所定の手続きを進め、早期の都市計画決定に向け手続きを推進している。		
施設の構造や工法の変更等 工期短縮、新技術・新工法の積極的な活用により、コスト縮減に努めて事業を進める。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図 		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。